

第23回 移動博物館 IN 伊是名

沖縄県立博物館では、博物館の利用に不便を感じておられる地域の方々に、博物館活動の一端に触れていただくため昭和54年度から「移動博物館」を実施してまいりました。平成10年度は23回目の開催にあたり、伊是名村離島振興センターにおいて、平成10年10月16日(金)～18日(日)の3日間開催いたしました。展示内容は自然史、考古、歴史、美術工芸、民俗の5分野からなり、高さ5mのサウロフス骨格標本をはじめ、総展示数は294点に上りました。また、移動博物館開催期間中に、「自然観察会」を高原建二(県立博物館学芸員)の指導で、地元の小学生や父母を対象に実施し、伊是名の野鳥を中心に、伊是名の自然を観察しながら学習していただきました。

開会式では、伊是名小学校の5、6年生と伊是名中学校の生徒の皆さんが参加し、児童生徒を代表して伊是名中学校3年生の野村絵里奈さんが、

「今日は、私達のために移動博物館という、すばらしい催し物を開催していただきありがとうございます。私たちが住む伊是名は、離島という事でなかなかこういうものを見学する機会がありません。この機会に、あまり、見ることの出来ない化石などを見て、いろいろなことを学びたいと思います。」と歓迎の挨拶を行いました。テーブルカットの後、小中学校の団体見学を行い、学年別に準備されたワークシートを使って、熱心に学習したり、学芸員に質問したりする姿が見られました。今回の移動博物館では台風のためフェリーが欠航し、予定されていた文化講座が実施できなくなるなど、更めて気象状況に左右される離島の生活の厳しさの一端を感じさせられました。

今年度の移動博物館では、期間中644人の入場者があり、盛況のうちに閉会いたしました。

企画展

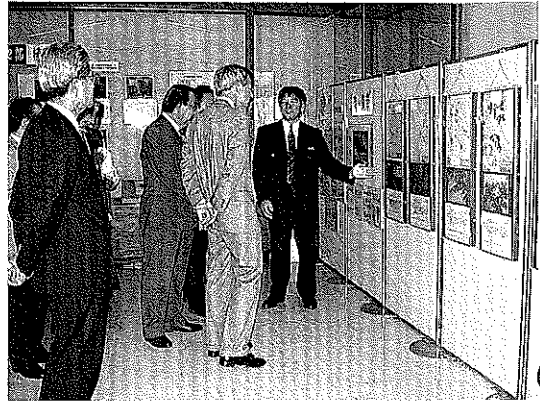
『琉球王国時代の植物標本展』

去った7月10日から8月9日までの1ヵ月間にわたって、1853年から1856年にペリー提督の遠征隊が採取した植物標本約160種を144年ぶりに里帰りさせ、企画展「琉球王国時代の植物標本」展が開催されました。この標本は現在米国のニューヨーク植物園、スミソニアン研究所、ハーバード大学の三カ所に保管されており、膨大なコレクションの中から、今回は沖縄（琉球）産の標本を中心に抽出して展示を行いました。

同標本は、琉球王国当時ペリー提督一行が立ち寄った首里城周辺などで採集したものと考えられ、当時の植物相を伺い知る学術的に価値のある貴重な植物標本で、今後の環境保全の基礎資料として活用してもらおうとの趣旨により企画展は開催されました。

植物標本は、今日でも普通に見られる植物が大部分を占めていましたが、驚いたことの中には海岸近くに自生するアオガビとウコンイソマツの新種記載のもととなるタイプ標本や、オモダカ、エビモなど今日では数少なくなった植物も含まれていました。

本企画展は沖縄タイムス社・海洋博記念公園都市緑化植物園・日本大学生物資源科学部の三者共



同により開催され、海洋博覧会記念公園内の都市緑化植物園でも8月14日から9月6日まで移動開催されました。会期中は関連行事として、特別文化講座「ペリー艦隊がみた琉球王国時代の作物について」（講演者：小山鐵夫日本大学生物資源科学部資料館教授）と博物館文化講座「ペリーの日本遠征一前進基地としての琉球王国」（講演者：照屋善彦琉球大学名誉教授）、さらに植物観察会が末吉公園で実施され、植物の植えている状況や環境保全について関心を深めました。

『平成9年度 新収蔵品展』

当館では、新しく収蔵された資料を公開する「新収蔵品展」を年一度開催しています。この「新収蔵品展」は、1972年より始まったものですが、前年に収蔵された資料を公開することを目的としています。



平成9年度は、寄贈、購入、収集などにより1,063点の資料が収蔵されました。今回の新収蔵資料のなかには、第10回全国スポレク関係資料に見られるように、必ずしも古い資料のみならず、現代の資料も含まれています。これらの現代資料は、その資料が作成された時代の世相を知る上でも重要なものになると思われまので、必要に応じて収蔵しています。

展示会は、平成10年8月18日（火）～9月27日（日）の期間で、企画展示室にて開催し、現代資料も含み約200点あまりを、自然・歴史・美術工芸・民俗の順に展示しました。

毎年この展示会を開催し、残念なのは、展示室の面積の関係上すべての資料が展示できないことです。そこで補足の資料として「新収蔵品展」の小冊子を作成し、配布しています。なお、今回の展示作業では、沖縄国際大学や東京女子大学、名古屋芸術大学の学芸員実習生も参加しました。

子ども体験学習

～ 古代人になれるかな～

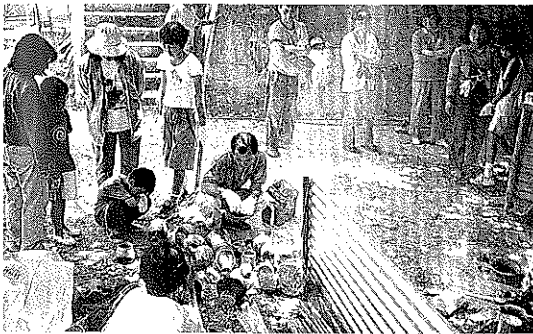
平成10年度の子ども体験学習教室は、「芋とイモ料理づくり」、「沖縄の岩石調べ」、「古代人のくらしを体験しよう」、「はりこのおもちゃづくり」の4講座を計画、実施しています。この体験教室は当館の展示内容である「沖縄の自然・歴史・文化」に即した内容で設定され、毎年新しい企画を取り入れながら実施しています。時期的には夏休みの児童・生徒の自由研究等に生かされるように休み前の第2・第4の学校休業日を中心に行っています。

今年が目玉は、7月25日(土)～8月30日(日)に行った「古代人のくらしを体験しよう」で、縄文式土器の製作から、火起こし体験、掘り棒を使ってのいも掘り体験、自作した土器を使っての魚介類の煮炊き、竪穴住居での寝泊まり体験等と与那

城町伊計島の仲原遺跡を中心に行いました。

自作の土器で煮炊きをする食事で古代人の生活に触れることをめざして取り組み、太陽のキラキラ照り付ける真夏の午後、海の幸を求めて浜辺に降り、陸の幸を求めて伊計島の田畑をうろつき、のどを枯らしながら水の有り難さを実感した「インナガー」でのイモ洗い、小魚こしらえ、水あび体験の連続、本当に疲れました。

夕食づくり：これまたこれまでの学習成果の集大成そのもの。食べることとなると人間はその本能を発揮するものです。参加者それぞれが知恵と工夫をこらしながらの焼きイモ、焼き魚づくり。自作の土器を使っての魚介類の煮炊きは予想以上の出来上がりでバツグンの味、夜空にキラメク星を見ながらつかの間の古代人のくらしでした。



土器の野焼き



火起こし体験

☆～参加者の感想～☆

とにかく古代人はすごい。自給自足の時代だから、狩りや木の実等が収穫できないときは、ごはんが食べられないこともあったんだね。それから古代人は太った人がいなかったせいか住居の入り口がせまく、入り口は四つんばいで入るのがめんどろだった。ほくが1番楽しかったのは芋掘りでした。でも、芋掘りも大変でした。うれしかったのは火起こし機で火がついたことです。家で練習

をしたかがありました。家に帰ったら火を起こすこともないけどいい体験になりました。(小6)

たった1食のために1日の大半を費やしました。まさに食を得るためのくらしそのものでした。竪穴式の住居はちょっとす気味悪かったが、入り口から涼しい風が入り込み過ごしやすかった。もう少し長ければ本当の古代人になれるかも？…

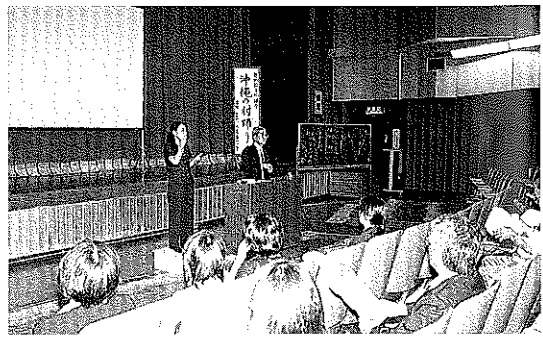
(参加者母親)

博 物 館 文 化 講 座

博物館文化講座は、当博物館の展示内容と関連する内容で、沖縄の自然・歴史・文化について楽しく学習できるように企画しています。今年は、文化講座を親子文化講座も含め14回計画しており、すでに上半期の9講座が終了しました。毎月1回のペースで講座を開いています。年々参加者も増え、質問も飛び交うなど郷土の自然、歴史、文化への関心の高さがうかがえます。

7月25日の企画展「植物標本展」の関連講座として行った「ペリー艦隊が見た琉球王国時代の作物について」では、小山鐵夫氏（日本大学教授）をお迎えして講演を行いました。1853年のペリー提督の来航に関連して採集された数多くの植物が、アメリカのニューヨーク植物園やスミソニアン研究所、ハーバード大学に保管されています。スライドでその保管の様子や今回展示している標本の解説などをさせていただきました。

9月19日に行った当博物館館長の「沖縄の村踊り」では、旧暦8月に沖縄各地で催される村踊りについて、名護市久志の村踊りのビデオを観ながら、古典芸能では見られない独特な演目を紹介していただきました。この講座では、より多くの方々に参加していただこうと、当博物館としては初めて、手話通訳をいれて開催しました。



「沖縄の村踊り」の講演の様子



夏休み親子文化講座



初めての機織り なかなか難しいなー

昨年までの夏休み「歩く、作る、見る」教室が、今年度から名称を変え、夏休み親子文化講座として3講座を行ないました。8月1日の末吉公園での「植物観察会」は、末吉宮まで遊歩道沿いにある草木を観察しながら登りました。また、8月15日の「沖縄の織物について」では、講演の後、講

師の宮平先生の工房へ行き、参加者全員が機織りを体験するなど有意義なものでした。親も子も初めての経験で苦労しながらも“カタンカタン”“トントントン”と一生懸命に織りました。8月29日の「標本鑑定会」では夏休みの自由研究で作った標本を持ってきて、講師の先生と一緒に図鑑で調べるなど、楽しい講座でした。

来年はあなたも参加してみませんか？



このクワガタムシはね...

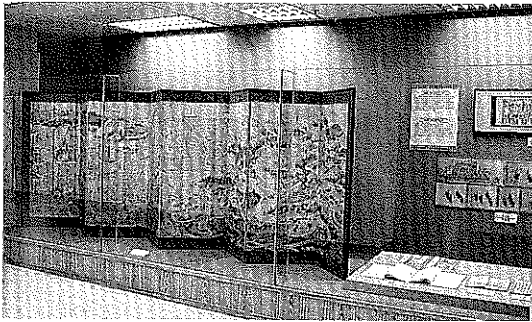
福建友好会館に展示室

オープン

福建・沖縄友好会館が本年7月28日に落成したことはみなさんご存じかと思います。その建物の7階フロアーに、福建・沖縄友好交流歴史展示館が同時にオープンしたことはあまり知られてはいません。広さは、歴史交流展示室が約200㎡、情報サービスセンター（沖縄関係の図書室）が155

㎡あります。所管は沖縄県の教育委員会で、教育庁文化課が担当して展示プラン等を計画しました。ただ、展示資料に関しては具体的な検討をおこない、当博物館からも資料提供をしました。

文化課から千木良芳範、園原謙、盛本勲各氏と当館から萩尾の計4名が展示作業のため現地へ赴きました。展示は全体としてまずまずの出来映えになりましたが、展示のための予算措置が厳しかったこと、資料の税関通過に時間を要したこと、さらにはオープン直前まで展示室の工事が行われ、展示作業がギリギリまでかかったことなど、気をもむ展示内容と日程でした。課題としては、会館自体が福建省の外事弁交室の管理に置かれるため、一般の人々が自由に入館できないこと、資料の管理・保全などの問題点が残されています。



歴史展示館の近世コーナー
（「首里那覇港図屏風」複製ほか）

博物館と私



沖縄県立博物館
ボランティア 末吉 方子

昨年五月に沖縄に転居して来て、翌日にはもう博物館ボランティア養成講座の椅子に座っていた。これも何かの「縁」だったのだろうと、今しみじみと思い返している。

博物館への道すら、まだ分からず、地図や人づてを頼りに、道端や軒先に揺れる南国の鮮やかな花々に心躍らせながら通った日々がとても遠い昔のように思える。

博物館内では、あちらこちらへの研修の旅で、随分と沖縄に関しての勉強をさせてもらい、自宅では図書館より沖縄関係の本を借りまくって読み、暇さえあれば地図を頭に描きながら那覇周辺を歩き回った。沖縄のことを知りたくて琉球という不思議な響きのある国のことを学びたくて、ボランティア養成講座を受け、頭の中が“オキナワ”

“琉球”で溢れ返り、夢中で過ごした1年だった。

これまで一年間余り、一方的に博物館より学ばせて頂くことばかりであったが、これからは少しずつボランティアの原点に戻って、この博物館と、多くの出会いのあった方々に感謝しながら何か少しでも、私でもお役に立てることに参加してゆきたいと思う。私の“沖縄”はこの博物館に始まり、いつか博物館で終わるだろう。沖縄県立博物館。琉球の、沖縄の歴史を静かに見守り続けてほしい。

博物館シアター

県立博物館では、生涯学習の場として県民のみならず、みなさんが気軽に足を運び、博物館を十分に利用していただくため、博物館シアターを平成6年度より、実施をいたしております。博物館シアターは、ジャンルにとらわれず、幅広く総合的な内容のものとし、映写会やミニコンサート等を日曜日の2時より、実施してまいりました。

平成10年度は、3シリーズに分けて実施しており、「黒沢明の世界Ⅱ」シリーズでは、世界の巨匠、黒沢明の代表作の中から「羅生門」と「野良

犬」の2本の作品を紹介いたしました。また、夏休み親子シアター・「アニメで楽しむ日本の名作」シリーズでは、宮沢賢治原作の「銀河鉄道の夜」と、聖井栄原作の「二十四の瞳」の2本を紹介し、多くの親子連れの皆さんに楽しんでいただきました。12月には、「なつかしの名作」というタイトルで、世界の映画史に残る名作の中から、「永遠の妖精」と呼ばれたオードリー・ヘップバーン主演作「ローマの休日」を紹介いたします。

下半期の博物館行事案内

特別展開催の御案内

特別展

「包むころ ふろしき」展

近年、風呂敷を使う場面が少なくなりつつあるが、江戸～昭和初期までの風呂敷を一堂に展示しながら、忘れかけていた日本の「包む文化」を紹介いたします。また、展示に沿った展示解説会や特別文化講座を企画しています。

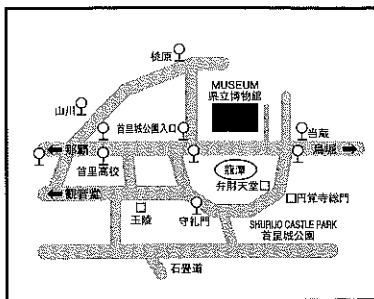
会 期：平成10年11月17日（火）～
平成10年12月20日（日）

特別文化講座

- 1) 平成10年11月17日（火）午後2時～4時
特別展展示解説会「包むころ～ふろしき」
講師：三瓶 清子（郡山倭文の会会長）
- 2) 平成10年12月5日（土）午後2時～4時
特別展文化講座「ふろしきの文化」
講師：竹村 昭彦
（宮井（株）商品部顧問、企画開発室長）

博物館では、11月以降も様々な事業を企画し、お待ちしております。

特別展 「包むころ ふろしき」展 11月17日（火）～12月20日（日）
子ども体験学習教室
11/28（土） 12/12（土） はりこのおもちゃづくり 12/26（土）
博物館シアター
12/13（日） ローマの休日 （118分）
博物館文化講座
11/17（火） 「包むころ ふろしき 特別展・展示解説会」 講師：三瓶 清子（郡山倭文の会会長）
12/5（土）「ふろしきの文化」 講師：竹村 昭彦 （宮井（株）商品部顧問、企画開発室長）
1/16（土）「野鳥観察会」 講師：嵩原 建二（県立博物館学芸員）
2/20（土）「グスクめぐり」 講師：當眞 嗣一（県教育庁文化課課長補佐） 矢沢 秀雄（県教育庁文化課調査嘱託員）
3/20（土）「昭和期の中城御殿」 講師：真栄平房敬 （那覇市文化財調査審議会委員）



【交通案内】

一那覇空港発一

- 125番（知花線）「桃原」バス停下車、徒歩10分
- 102番（空港普天間線）「当蔵」バス停下車、徒歩3分

一市内バス一

- 1番（首里識名線）12番（末吉線）
- 13番（牧志線）17番（石嶺間南線）の「首里城公園入口」、または「当蔵」バス停下車、徒歩3分

一市外バス一

- 46番（糸満西原線）「当蔵」バス停下車、徒歩3分
- 25番（石川）97番（城大線）の「税原」バス停下車、徒歩10分

沖縄県立博物館だより No.40

発行年月日：平成10年11月
編集・発行：沖縄県立博物館
住 所：〒903-0823
那覇市首里大中町1-1
TEL 098-884-2243
FAX 098-886-4353